

副会長からのメッセージ

存在価値を持ち続ける



中央大学 教授
中條 武志

日本品質管理学会の正会員の数は、最も多かった10年まえの約3500名から毎年約100名ずつ減り、2500名を切るまでになりました。1970～80年代、総合的品質管理(TQCまたはTQM)が全盛の時代に会員になられた方が次第に職場を去られる一方、新たに入会される方が少ないことが原因です。

年8000円の安くない会費を払って、「品質」誌に掲載される難解な論文や解説を読んだり、研究発表会で未完成な手法や考え方の話を聞いたりすることに価値があるのかと疑問を持たれる方も多いと思います。もう少し会員に直接役立つことをやったらどうだというお叱りも頂いています。

私事ですが、品質管理学会に初めて参加させていただいたのは、33年前の研究発表会でした。学会で発表するというので、偉い先生からさぞ厳しいご指摘を受けるのだろうと不安に思っていたのですが、発表後にベテランの実務家の方から「おもしろい発表だった」と声をかけていただき、大変励みになったのを覚えています。

学会とは何でしょうか。品質管理の普及に取り組んでいる他の団体と何が違うのでしょうか。品質管理に興味がある人たちが集まって、自分が行ったことや考えたことを他の会員にぶつけ、損得を抜きにした意見交換ができる場、そういう中から本当の専門家が育つ場ということにこそ存在価値があるのではないのでしょうか。学会が今後もこのような価値を持ち続けることができるよう、会員一人一人が努力していくことが大切だと思います。

そこで、会員の皆様をお願いしたいことがあります。

まず、年4回開催している研究発表会・年次大会で、仕事や研究で直面している問題や課題、それに対して取り組んでいること、考えたことを発表してください。完成したものである必要はありません。未完成なものを議論し、発展させていくことが学会の価値です。また、大会に参加し、発表者に率直な感想・疑問を伝えてください。発表後に、個人的に話をするのもよいと思います。これが、次の実践や研究への原動力となります。

第二に、「品質」誌に論文や事例を投稿してください。投稿者やレフリーの名前を伏せた審査では、本当の意味で他の人の率直な意見を聞くことができます。会員にとって価値のある情報であれば掲載する「クオリティレポート」という投稿区分もあります。掲載されれば、電子図書館等を通じて多くの人の評価を受けることができます。原稿やレフリーの依頼も断らず、引き受けてください。

第三に、研究会や産学連携の研究活動、部会活動、委員会活動に積極的に参加してください。少人数での深い議論は、自分が直面している問題や課題に対する多くのヒントを与えてくれます。そこから新たな発表や論文・事例の種が生まれます。

最後に、会員を継続してください。上記のような場を維持していくためには費用がかかります。このような場の大切さを理解し、支援して下さる方々がいて初めて可能になります。

今後も、会員各位の、日本品質管理学会に対する変わらぬ積極的な参画と暖かいご支援をお願い申し上げます。